どじょうすくい

昭和四十七年度　六年女児

学校から帰ると、すぐ友達とどじょうすくいに行った。洗面器をもって、素足にサンダルをはいて、ぬがってもいいようなかっこうをして、大急ぎで田んぼの方へ走っていった。

行ってみるど、めだかの行列がいたので、急いで友達へ知らせようと、

「あれっ、あそこさいっぺいっだ。」と言ったら、メダカたちがびっくりしたように、急いであらこらに逃げていった。追いかけようとすればするほど、もぐったり、草の中にかくれたりして、一匹もつかまえることがてきなかった。ざるやたもがなくてもってこれなかったのでよけいつかめなかった。

なかなかつかめないので、

「中にはいってつかまえっが。」といって中にはいった。私は、くもやいろいろな虫がいる緒ではないかと、心配しながら、足を一本一本、すこしずつゆっくり入れた。中はどろなので、ぬるぬるして、とても気持ら悪かった。浅い所や深い所など、いろいろあるが、私たちが入ったので水がにごってしまい、わからなくなったので、注意しながら入った。

中に入ってからは、メダカなどがたくさんとれた。でも、かんじんのどじょうが全然とれない。絶対にどじょうをとってやろうと、友達と協力して、一人が波を起こし、一人が寄ってきたものをとるというふうに、いっしょうけんめいにやった。

「どじょうだ。」と友達がさけんだ。私は急いでそっちの方へ行った。土壌が一匹とれたのだった。どじょう一匹で、私たちはとても喜んだ。

私も負けずにとろうと、あちこちに洗面器をつっこんだ。父が、草の知覚や、泥の中にどじょうはいるものだと教えてくれたのを思い出し、草のかげなどをさがしぐいぐい洗面器をつっこみ、中に入ったどろの中を手でさがした。何かぬるっとするものがあったので、私は、「どじょうかも。」と思った。どじょうが一匹いた。

それからは、どんどんどじょうがとれた。ざりがにもとれた。足などがどろだらけになったけれど、とても楽しいどじょうすくいだった。